

独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会（令和5年度第1回）議事概要

開催日及び場所	令和5年12月14日（木） 東京国立博物館平成館3階第2会議室	
出席委員 （敬称略）	<p>○委員長 原田 一敏（ふくやま美術館 館長／東京藝術大学 名誉教授）</p> <p>○委員 西浦 忠輝（特定非営利活動法人文化財保存支援機構 副理事長） 上野 憲一郎（株式会社三越伊勢丹 美術営業部 営業部長） 山田 美代子（公認会計士） 久留島 典子（独立行政法人国立文化財機構 監事） 稲垣 正人（独立行政法人国立文化財機構 監事）</p>	
審議対象期間	令和5年4月1日～令和5年9月30日	
個別審査対象案件	111件	○議事
令和5年度（4～9月期）契約 （競争性のない随意契約）	39件	<p>（報告事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度第2回契約監視委員会の実施結果について</li> <li>2. 前回契約監視委員会のフォローアップについて</li> <li>3. 令和5年度上半期契約実績について</li> </ol>
令和5年度（4～9月期）契約 （一者応札・一者応募）	38件	<p>（協議事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和5年度（4～9月期）契約点検（競争性のない随意契約）</li> <li>2. 令和5年度（4～9月期）契約点検（一者応札・一者応募）</li> <li>3. 令和5年度（4～9月期）契約点検（その他案件）</li> </ol>
令和5年度（4～9月期）契約 （その他案件）	34件	

※委員からの意見・質問、それに対する回答、及び審議総括については、【別紙1】のとおり

【別紙1】

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>(報告事項)</p> <p>1. 令和4年度第2回契約監視委員会の実施結果について</p> <p>特段の質問事項はなし</p> <p>2. 前回契約監視委員会のフォローアップについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 調達案件によって改善取組の実施が可能かその都度検討が必要であると考え。目標数値達成に向けて本取組がどれだけ効果を発揮したのかについては、また取組開始後に報告してほしい。</li></ul> <p>3. 令和5年度上半期契約実績について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 文化財の高精細複製品製作事業について、高額な契約金額に見合った活用がされているのかを改めて精査し、真に機構の事業に必要なものであるかを検討する必要がある。また、契約相手方も共同研究によって技術を得られるメリットがある。そういった点を考慮して、契約金額についても今後更なる適正化を図る必要がある。</li></ul> <p>(協議事項)</p> <p>1. 令和5年度(4~9月期)契約(競争性のない随意契約)の点検</p> <p>(1) 該当の契約39件について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 東京国立博物館の東京モノレール羽田空港第3ターミナル駅広告媒体掲出業務契約について、アンケートなどで調査を実施することで直接的なその広告の効果や認知状況を把握し、継続の要否を引き続き検討すべきである。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 取組開始後の令和6年度上半期の結果等を踏まえ効果については再度検証し、更なる改善のために引き続き検討したい。</li><li>・ 複製品製作の契約金額の内訳については、文化財を忠実に再現するための製作費が大半を占めている。活用事例と効果を振り返り、本プロジェクトの適正性については引き続き注視していく。</li><li>・ アンケートの実施等による効果の測定や新たな手法の模索等、引き続き東京国立博物館において検討したい。</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>各館の特別展の図録購入契約において購入した図録の用途について如何。</li> <li>皇居三の丸尚蔵館の収藏品情報システム運用及び保守について、契約金額が非常に高額であるが、今後見直しの余地はあるのか。</li> </ul> <p>(2) 総括</p> <p>令和5年度(4~9月期)契約(競争性のない随意契約)について、妥当であると判断する。</p> <p>2. 令和5年度(4~9月期)契約(一者応札・一者応募)の点検</p> <p>(1) 該当の契約38件について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奈良文化財研究所の卓上電子顕微鏡付属エネルギー分散型X線マイクロアナライザーシステム調達の財源の寄附金について経緯は如何。</li> <li>一者応札・応募事案フォローアップ票について、電子入札システムの導入取組については長年改善できていないが、導入の検討について如何。</li> <li>文化財輸送契約について、同じ相手先での一者応札・応募が散見されるため、他者の参加が可能となるような仕様・入札参加要件への改善取組が必要である。</li> <li>予定価格の算出方法は適切なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に開会式・内覧会用及び、館内業務や研究で活用するために特別展ごとに必要冊数を購入している。</li> <li>皇居三の丸尚蔵館の移管時には構築済のシステムであり、完全クラウド化で、管理及び保守についても全て委託しているため高額となっている。次回契約において契約金額は見直しを検討したい。</li> <li>寄附者の意向によるもの。</li> <li>導入によるメリット・デメリットを検討したが、費用対効果が見込めないため導入を見送っているところ。</li> <li>機構が取扱うことが多い古美術品については、取扱いに要する資格の等級を限定していることから入札参加要件の緩和が難しい状況であるが、その他の部分において緩和できるような要件がないか検討したい。</li> <li>必要に応じて市場価格調査や原価計算を行うなど、適切に算出している。</li> </ul>
---	---

(2) 総括

令和 5 年度 (4~9 月期) 契約 (一者応札・一者  
応募) について、妥当であると判断する。

3. 令和 5 年度 (4~9 月期) 契約 (その他案件)  
の点検

(1) 該当の 34 件について

特段の質問事項はなし

(2) 総括

令和 5 年度 (4~9 月期) 契約 (その他案件) に  
ついて、妥当であると判断する。

以上